

各種様式や本研修資料は以下の県ホームページに掲載しています

「洪水時における要配慮者利用施設の避難確保計画について」

※「熊本県 要配慮者」と検索してください

※スマートフォンやタブレットから、右のQRコードを
読み込んでもアクセスできます



洪水及び土砂災害を想定した 要配慮者利用施設 避難訓練研修資料

令和3年9月

熊本県河川課・砂防課

- ◆水防法及び土砂災害防止法の規定により、浸水想定区域内や土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設（市町村地域防災計画に定められた施設）の管理者等は、①避難確保計画の作成、②避難訓練の実施、③避難確保計画及び避難訓練結果の市町村への提出の3点が義務づけられています。
- ◆作成した避難確保計画は、避難確保計画チェックリスト※による確認や避難訓練での検証を行い、そこで得られた課題についてはその都度改善を重ね、より実効性の高い計画としていくことが重要です。※R3.7月 国土交通省作成（熊本県ホームページにも掲載）
- ◆避難訓練は作成した避難確保計画の内容に沿って実施し、避難場所など計画内容に課題が見つかった場合は計画の見直しを行い、市町村へ提出します。

PDCAサイクルに基づく防災体制構築のイメージ

Plan：避難確保計画の作成

Do：避難訓練の実施

Act：避難確保計画の見直し

Check：訓練内容の検証

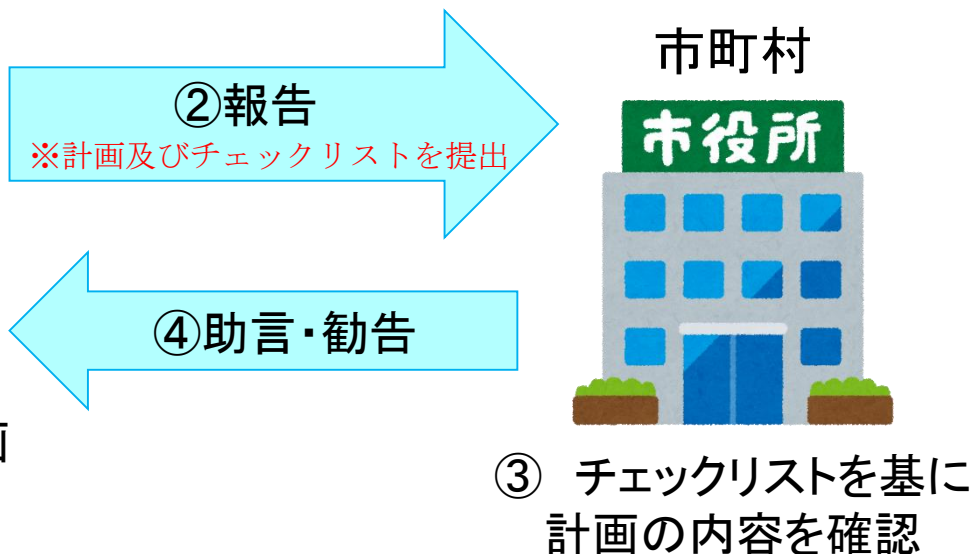
要配慮者利用施設において実施する内容①

避難確保計画に関すること

要配慮者利用施設



- ① 避難確保計画を作成し、避難確保計画チェックリストの各項目に基づき、計画の内容をチェック※チェックリストは県HPに掲載
- ⑤ 市町村の助言・勧告を受けて適宜修正



留意点

- 新たに避難確保計画を作成する場合や変更する場合には、避難確保計画と併せてチェックリストの提出をお願いします
- 既に避難確保計画を作成し、市町村へ報告している場合には、避難訓練結果の報告の際に、チェックリストを併せて提出してください

※ 学校については、文部科学省の「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」を活用してください

避難訓練に関すること

要配慮者利用施設



① 避難訓練の実施(年1回以上)

② 訓練結果の報告
※報告様式は県HPに掲載

④ 助言・勧告

市町村



③ 訓練結果の確認

留意点

- 訓練実施後は、速やかに訓練結果を報告してください
(今年度既に避難訓練を実施し、訓練結果を未報告の場合も報告をお願いします)
- 訓練内容を分けて複数日で実施する場合は、最後にまとめて報告することができます

避難確保計画チェックリスト ※医療施設の場合(抜粋)

(別紙1)

避難確保計画チェックリスト (医療施設)

医療施設 チェック担当者名	市町村 チェック担当者名

医療施設名	
市町村名	

医療施設の災害リスク情報の確認		医療施設 チェック欄	市町村 チェック欄
災害リスクに応じて、当該医療施設が市町村地域防災計画に位置づけられているか。		<input type="checkbox"/> 位置づけを確認した	<input type="checkbox"/> 位置づけている <input type="checkbox"/> 位置づけていない
災害リスクの確認	洪水浸水想定区域内に位置するか。	<input type="checkbox"/> 位置する <input type="checkbox"/> 位置していない	<input type="checkbox"/> 位置する <input type="checkbox"/> 位置していない
	土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域内に位置するか。	<input type="checkbox"/> 位置する <input type="checkbox"/> 位置していない	<input type="checkbox"/> 位置する <input type="checkbox"/> 位置していない

計画項目	チェック項目	施設 チェック欄	市町村 チェック欄
(ア)防災体制、情報の収集・伝達 <small>(水防法施行規則 16 条一) 洪水時の防災体制に関する事項、(土砂災害防止法施行規則 5 条の 2 一) 土砂災害が発生するおそれがある場合における防災体制に関する事項</small>	1. 医療施設の所在する地域における、浸水するおそれのある河川の情報、土砂災害に関する情報や避難情報を収集・伝達する体制が定められているか。 【着眼点】 <input type="checkbox"/> 洪水予報、土砂災害警戒情報等の防災気象情報、市町村からの避難情報、その避難に必要な情報について、誰が、どうやって、何を収集するの明確に記載されているか。 <input type="checkbox"/> 必要な情報を誰に、どうやって伝達するか、明確に記載されているか。 <input type="checkbox"/> 市町村等への連絡者、連絡先、連絡手段、連絡するタイミング(避難開始や避難完了のタイミング等)が記載されているか。	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 要改善	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 要改善
	2. 警戒レベル3「高齢者等避難」の発令の段階で利用者の避難誘導を行う体制となっているか。	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 要改善	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 要改善

【着眼点】 <input type="checkbox"/> 警戒レベル3「高齢者等避難」の発令が、医療施設の災害対策マニュアルにおいて位置づけられていて、その発令を受け避難行動をとる体制となっているか。 <input type="checkbox"/> 職員の参集が困難となる大雨や暴風時における避難についても想定し、早めの避難支援要員を確保できる体制の構築を考慮しているか。また、夜間や休日における避難支援要員の確保についても考慮しているか。 <input type="checkbox"/> 避難の人数が多くなると、避難行動自体が患者の負担となり得ることから、患者の健康状態に応じて避難の開始タイミングを分けるなど、医療施設の実情に応じた避難方法を定めているか。			
3. 警戒レベル3「高齢者等避難」等の発令が無い場合でも避難の判断ができるよう、複数の判断材料が設定されているか。	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 要改善	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 要改善	
【着眼点】 <input type="checkbox"/> 警戒レベル3「高齢者等避難」の発令の日安となる地震警戒情報及び大雨警戒(土砂災害)や、避難指示の日安となる地震危険情報及び土砂災害警戒情報についても判断材料として利用されているか。 <input type="checkbox"/> 警戒レベル3「高齢者等避難」の発令が無い場合でも避難の判断ができるよう、複数の判断材料を設定しているか。 <input type="checkbox"/> 医療施設において、警戒レベル3「高齢者等避難」の発令が想定されるような、台風などが予想される場合、休日に休診とすることを設定しているか。 <input type="checkbox"/> 避難開始の判断の日安とするため、患者全員が避難するのに要する時間について、計画に記載しているか。			
(イ)避難誘導 <small>(水防法施行規則 16 条二) 洪水時の避難の誘導に関する事項、(土砂災害防止法施行規則 5 条の 2 二) 土砂災害が発生するおそれがある場合における避難の誘導に関する事項</small>	1. 避難先は避難の実効性が確保された場所に設定されているか。 【着眼点】 <input type="checkbox"/> 移動に伴う患者のリスクを踏まえ、垂直避難先を確保しているか。また、垂直避難先は、浸水しない高さで設けられているか。 <input type="checkbox"/> 水平避難(立退き避難)を行う場合は、移動に伴う患者のリスクを踏まえ、「近隣の安全な場所」や「他の医療施設」への避難とし、緊急度合いに応じた複数の避難先が確保されているか。 <input type="checkbox"/> 設定されている避難先(垂直避難先、指定緊急避難場所、近隣の安全な場所、他の医療施設)が、移動に伴う患者のリスクや避難にかかる時間等を踏まえた実効性のあるものになっているか。 <input type="checkbox"/> 水平避難(立退き避難)を行う場合であっても、避難先が家屋河原等氾濫想定区域や土砂災害警戒区域内に含まれていないこと、浸水しない高さで設けることなど施設内で安全確保の対応ができるか。	<input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 要改善	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 要改善

○チェックリストは施設種別(学校、社会福祉施設、医療施設)ごとにありますので、自施設のものを使用してください

○避難確保計画チェックリストは県HPからダウンロードしてください※「熊本県 要配慮者」と検索してください

1. 段階的に発表される防災情報と『要配慮者利用施設の主な行動』をイメージしてみましよう。
2. 避難訓練を実施する
3. 避難**訓練**チェックリストについて
4. 「共通訓練【必須】」チェックリスト
5. 「選択編」訓練チェックリスト
6. 注意事項(新型コロナウイルス対策等)
7. 避難訓練実施報告書を提出する
8. 避難**訓練**計画を作成する
9. 施設が考える避難時における主な課題等

避難確保計画チェックリストとは異なります(避難**訓練**チェックリストを市町村へ提出する必要はありません)

1. 段階的に発表される防災情報と

『要配慮者利用施設の主な行動』を

イメージしてみましょう。



『参考動画(国土交通省)』

MLIT channel動画「要配慮者利用施設の避難確保計画の作成について」

【第3部】避難に必要な時間の把握と避難開始のタイミングの判断(約7分)

<https://youtu.be/LOMH0sXbCAY>

『参考資料(熊本県)』

避難確保計画作成支援資料(基礎知識編)

⇒熊本県ホームページに掲載(「熊本県 要配慮者」と検索)

段階的に発表される防災情報と『要配慮者利用施設の主な行動(例)』

警戒 レベル	1	2	3	4	5
雨の 様子	<p>警報・注意報 に先立ち発表 (警報・注意報を補完)</p> 	<p>災害の起こるおそれ</p> 	<p>重大な災害の起こるおそれ</p> 	<p>重大な災害の起こる おそれが著しく大きい</p> 	<p>災害発生</p> 
防災 気象情報		<p>氾濫注意情報 氾濫注意水位到達</p> 	<p>氾濫警戒情報 避難判断水位到達 洪水警報</p> 	<p>氾濫危険情報 氾濫危険水位到達</p> 	<p>氾濫発生情報 大雨特別警報</p> 
災害 土砂	<p>土砂害危険度情報 熊本県統合型防災情報 システムで確認可能</p>	<p>大雨注意報</p> <p>■ 注意</p>	<p>大雨警報(土砂災害)</p> <p>■ 警戒</p>	<p>土砂災害警戒情報</p> <p>■ ■ ■ 危険</p>	<p>大雨特別警報</p>
避難 情報等	<p>早期注意情報 (警報級の可能性)</p>	<p>大雨注意報 洪水注意報</p>	<p>高齢者等避難</p>	<p>避難指示</p>	<p>緊急安全確保</p>
施設の 行動	<p>情報収集</p> 	<p>心のスイッチ ⇒防災モード</p> <p>避難開始</p> 	<p>避難完了</p> 		

段階的に発表される防災情報と『要配慮者利用施設の主な行動(例)』

警戒レベル

1

警報・注意報に先立ち発表
(警報・注意報を揃完)

雨の様子



防災気象情報

川の様子



避難情報等

早期注意情報
(警報級の可能性)

施設の行動

情報収集



【入手する防災情報】

早期注意情報

検索

※気象庁ホームページ

翌日早朝にかけて警報級の可能性[中]となるケース

種別	1日	2日				
	明け方まで	朝～夜遅く	3日	4日	5日	6日
	18-6	6-24				
大雨	[中]	-	-	-	-	-
大雪	-	-	-	-	-	-
暴風(暴風雪)	-	-	-	-	-	-
波浪	-	-	-	-	-	-

今夜、大雨警報が発表されるかもしれない。参集する職員に声をかけておこう。



次の日に警報級の可能性[高]となるケース

種別	1日	2日				
	明け方まで	朝～夜遅く	3日	4日	5日	6日
	18-6	6-24				
大雨	-	[高]	-	-	-	-
大雪	-	-	-	-	-	-
暴風(暴風雪)	-	[高]	-	-	-	-
波浪	-	[高]	-	-	-	-

明日、警報が発表される可能性が高い。避難準備・高齢者等避難開始を発令する事態となるかもしれない。手順を確認しておこう。



[高]のときは、気象警報等で詳細な時間帯などを確認する。

気象警報等

〇〇県気象情報

【施設の防災イメージ(例)】

- ◆【避難確保計画】の確認
 - ・ハザードマップ、避難先、避難経路
 - ・避難行動の目安となる防災気象情報等
 - ・市町村からの避難情報等の伝達方法
 - ・役割分担、避難に必要な資器材、備蓄品



段階的に発表される防災情報と『要配慮者利用施設の主な行動(例)』

警戒
レベル

2

雨の様子

災害の起こるおそれ



防災
気象情報

川の様子

氾濫注意情報 氾濫注意水位到達



土砂

大雨注意報

土砂害危険度情報 注意

避難
情報等

大雨注意報 洪水注意報


施設の
行動



心のスイッチ
⇒防災モード

【防災情報入手】

指定河川洪水予報 検索



クリック

地方	発表状況
北海道	発表済み
東北	発表済み
関東甲信	発表済み
北陸	発表済み
東海	発表済み
近畿	発表済み
中国	発表済み
九州北部	発表済み
九州南部	発表済み
沖縄	発表済み

表の黄色：**氾濫注意情報**

気象警報 注意報 検索




熊本県統合型防災情報システム



土砂災害危険度情報

【施設の防災イメージ(例)】

◆雨や水位の情報収集




氾濫注意水位に到達しているし、雨もやまないので避難判断水位まですぐ到達しそう。

心のスイッチを入れる段階

◆施設責任者への報告

川の水位がキケンです

避難開始に向けた準備を進める段階



施設の体制を整えてください。避難のための準備をお願いします。

- ・ 前日の休園や休業の判断
- ・ 従業員の職員参集
- ・ 避難のための準備 など

段階的に発表される防災情報と『要配慮者利用施設の主な行動(例)』

警戒 レベル	3
雨の様子	<p style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px;">重大な災害の起こるおそれ</p> 
防災 気象情報	<p style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px;">氾濫警戒情報 避難判断水位到達 洪水警報・大雨警報</p> 
川の様子	
土砂	<p style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px;">大雨警報(土砂災害)</p> <p style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px;">土砂害危険度情報 ■ 警戒</p>
避難 情報等	<p style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px;">高齢者等避難</p> 
施設の 行動	避難開始

【防災情報入手】

熊本県防災情報メール
検索

13:14 熊本県 4G 76%

【警戒レベル4】避難勧告

受信トレイ

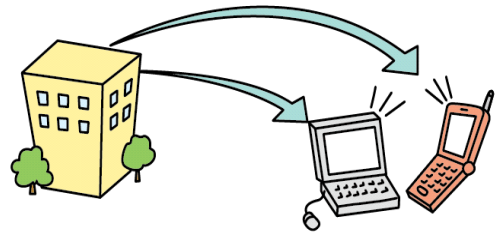
熊本県防災情報... 2020/7/11

To: 自分

こちらは美里町です。町内全域に【警戒レベル4】避難勧告を発令しました。避難所につきましては引き続き町内4箇所 美里町総合体育館、美里町福祉保健センター湯の香苑、砥用中学校、美里町砥用B&G海洋センターとなります。また、避難所に避難される際は、感染症予防対策を行い、食料品、寝具など各自でご準備ください現在発令中の避難情報については、以下をクリックして確認してください。
防災情報くまもと URL: <https://portal.bousai.pref.kumamoto.jp>

登録したメールアドレス宛に
水位情報をプッシュ型で配信
(スマホも可)

避難準備・高齢者等避難開始



市町村からの

- ・防災情報メール
- ・電話、fax など

【施設の防災イメージ(例)】

- ◆ 施設責任者への報告 (氾濫の危険性)
- ◆ 避難判断・避難指示
- ◆ 従業員への説明
- ◆ 館内放送 (避難開始)



◆ 立退き避難 (水平避難)



◆ 屋内安全確保 (垂直避難)



土砂災害の特徴について

○土砂災害(がけ崩れ・土石流・地すべり)の場合

立退き避難(水平避難)は、土砂災害の発生が予想される時期(時間帯)、避難を完了するまでに要する時間等を考慮して設定します。例えば、大雨警報(土砂災害)、土砂災害警戒避難情報及び土砂災害警戒判定メッシュ情報の発表、高齢者等避難開始の発令を判断時期にして、当該配慮者利用施設から避難可能である施設を設定します。

なお、土砂災害の特徴として、局所的かつ突発的に被害が発生することが挙げられます。

土砂災害が「いつ」「どこで」発生するかを正確に予測することは難しく、河川の水位のように、見た目に分かりやすい避難を判断する指標がありません。

また、土砂災害は、家屋等の建物の破壊及び人的被害が発生するなど甚大な被害を引き起こすことも多く、更には地形そのものが変化することも特徴として挙げられます。

このような特徴を踏まえ、土砂災害の場合は、**施設外の指定避難場所及び福祉避難所等への立ち退き避難(水平避難)を基本とします。**ただし、緊急でやむを得ない場合は、近隣の安全な場所への避難や、最低限のリスク回避として、施設内での屋内安全確保(垂直避難)となることもあります。施設ごとの特性に合わせた避難場所を判断する必要があります。

(国土交通省 避難確保計画作成の手引き 解説編 26ページ抜粋)

川の防災情報による水位、カメラ映像の確認方法

川の防災情報 検索

作業手順 1

国土交通省 川の防災情報

検索方法を選択し、河川名等を入力

全国の洪水の危険度（洪水予報等）

氾濫注意情報 青森県

※ 同じ都道府県内に複数の情報が発表されている場合は、最も高い警戒レベルの情報に基づき表示しています。

情報の探し方を選ぶ

サイト内検索

フリー検索 市町村名から検索 河川名から検索 観測所名から検索

検索したいキーワードを入力してください（最大3...）

文字を入力してください

自宅等のリスクを調べる

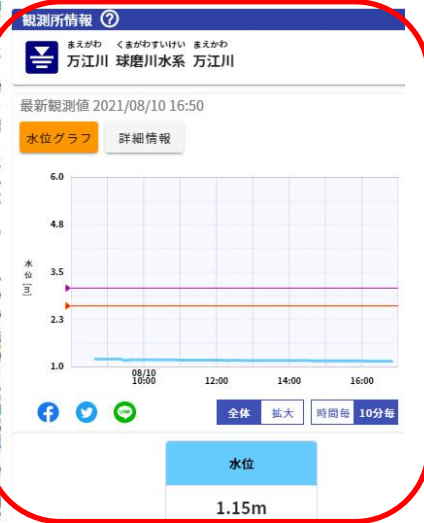
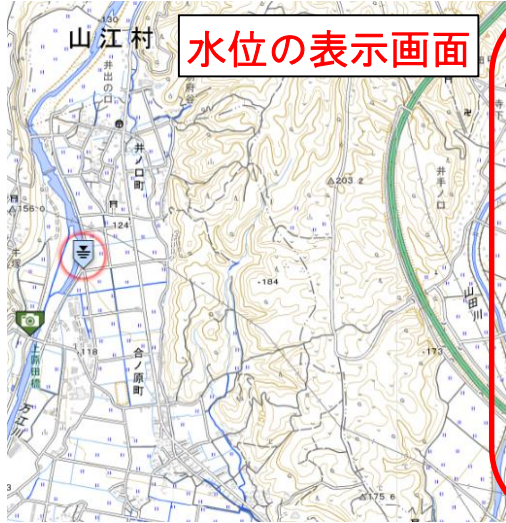
登録した地点の状況を確認できる

地点1

地図から探す 市町村から探す

日本地図を拡大し、見たい地域を選択できます。

市町村内の各種情報をまとめて確認できます。



作業手順 2

国土交通省 川の防災情報

熊本県人吉市 2021/08/10 16:56

地図を拡大し、水位計や河川カメラをクリック

以下は「地図から探す」を選択した場合



河川水位の確認方法

県内河川における現在の水位（従来型水位計）が確認できます。
 ※危機管理型水位計の情報は「川の防災情報」で御確認ください。

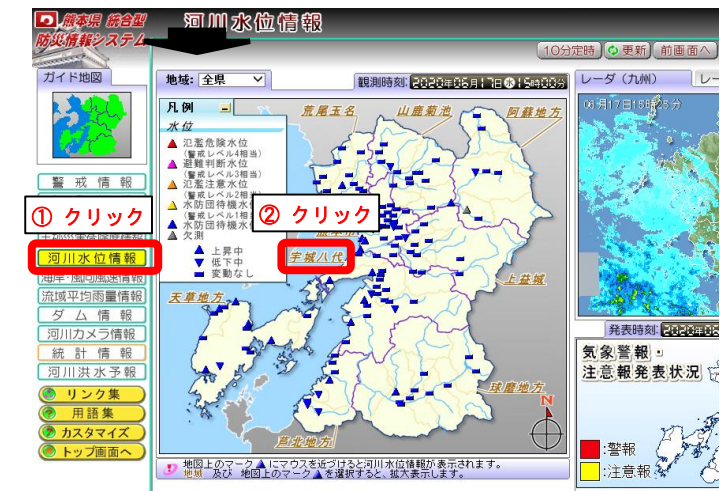
熊本県統合型防災情報システム

検索

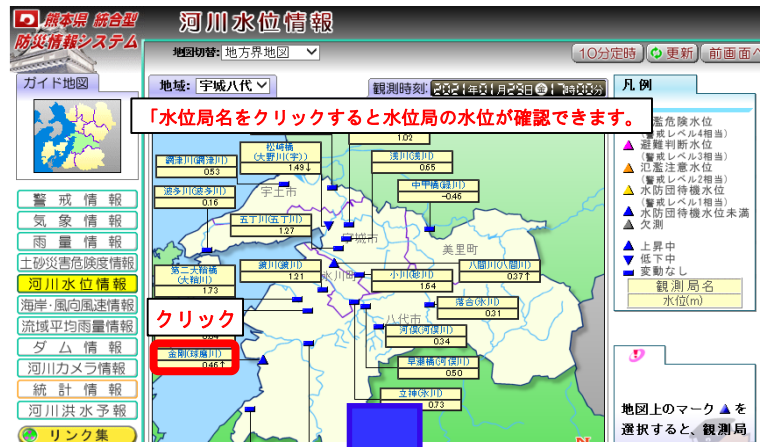
■作業手順1



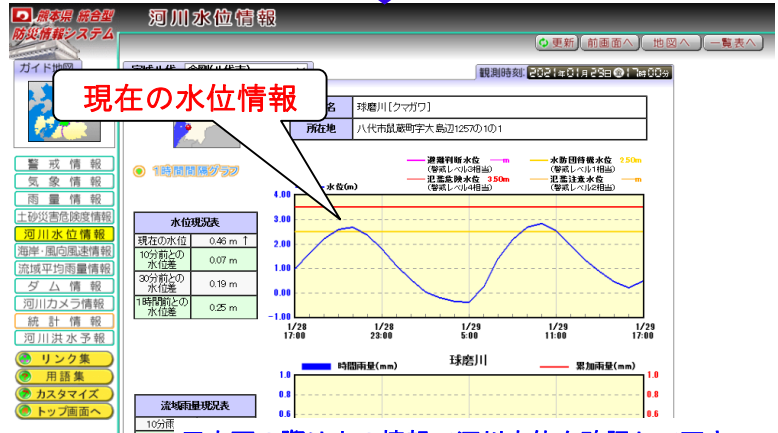
■作業手順2



■作業手順3



■作業手順4



■大雨の際は上の情報で河川水位を確認して下さい。

河川カメラ映像の確認方法

検索

県内河川における河川カメラ映像（従来型）が確認できます。
※簡易型河川カメラの情報は「川の防災情報」で確認してください。

■作業手順 1



■作業手順 2



■作業手順 3



■作業手順 4



土砂災害危険度情報の確認方法 熊本県統合型防災情報システム

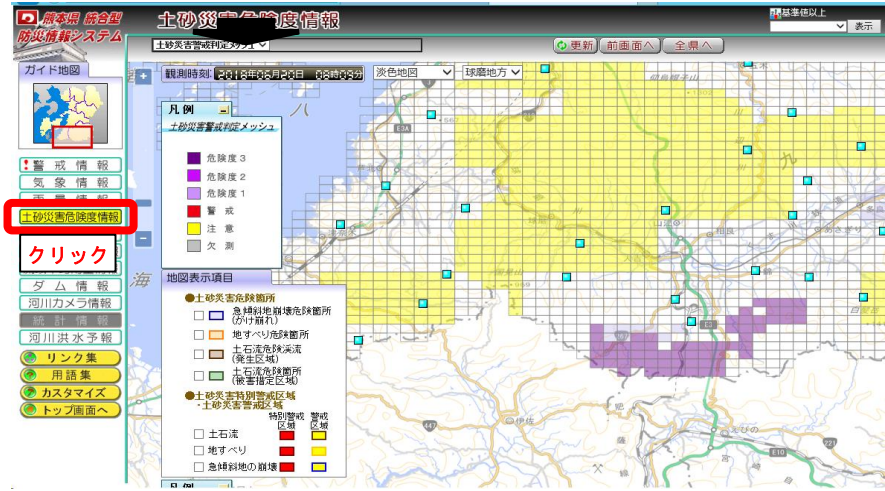
検索

大雨による土砂災害発生危険度の高まりを地図上で1km四方の領域（メッシュ）ごとに5段階に色分けして示す情報です。

作業手順1



作業手順2



※情報の表示（凡例）について

凡例
土砂災害警戒判定メッシュ

- 危険度3 ⇒ 現在、スネーク曲線がCLラインを超過している状況。**土砂災害発生恐れあり。**
- 危険度2 ⇒ 現在、スネーク曲線が1時間以内にCLライン到達または超過が予想される状況。**避難完了の目安。**
- 危険度1 ⇒ 現在、スネーク曲線が2時間以内にCLライン到達または超過が予想される状況。**避難を開始する目安。**
- 警戒 ⇒ スネーク曲線が警戒基準値到達または超過が予想される状況。**避難準備を開始する目安。**
- 注意 ⇒ スネーク曲線が注意基準値到達または超過が予想される状況。**今後の雨量に注意が必要。**

※ スネーク曲線 … 土砂災害警戒情報を発表するための基準となる曲線(グラフ)
 ※ CLライン … 土砂災害発生危険基準線(Critical Line)

9月下旬までメンテナンスにより新規登録
ができないため、新規登録は10月からお
願いします

熊本県防災情報メール

登録したメールアドレス宛てに水位情報や各市町村が
発令した避難情報がプッシュ式に発信されます

登録手順

- ① 「熊本県防災情報メール」で検索
- ② 案内に沿って「entry@anshin.pref.kumamoto.jp」
に空メールを送信
- ③ 受信したい情報を設定
【洪水に備えるために必ず設定していただきたい項目】
 - ・ 受信市町村
 - ・ 気象注意報・警報・特別警報
 - ・ 指定河川洪水予報／河川水位超過情報
※河川名、水位観測局を選択して
ください
 - ・ 避難指示等の情報
 - ・ 市町村からの防災等に関するお知らせ(※土砂災害警戒区域の場合は「土砂災害警戒情報」)

熊本県防災情報メール

検索

携帯電話に発信された防災情報メール
(河川水位超過情報) の内容

13:14 76%

←

【警戒レベル4相当情報】氷
川水位超過情報 受信トレイ

熊本県防災情報... 2020/7/11
To: 自分

【警戒レベル4相当情報】松本橋観測局の水位は、07
月11日07時20分に氾濫危険水位に達しました。
現在の水位 2.65m
(氾濫危険水位2.65m)

詳細な情報は<http://www.anshin.pref.kumamoto.jp/rireki/saigai/suii.html>

避難情報に関する周知チラシについて

◆避難情報は命に関わる重要な情報であるため、以下のチラシを施設内に掲示、又は施設利用者に配布することなどにより、施設におかれましても周知を図っていただくようお願いします
(チラシは県HPや内閣保HPに掲載されています)

令和3年5月20日から

ひなんしじ

避難指示で必ず避難

ひなんかんこく

避難勧告は廃止です

警戒レベル

4

新たな避難情報等

5	災害発生 又は切迫	緊急安全確保※1
4	災害のおそれ高い	避難指示※2
3	災害のおそれあり	高齢者等避難※3
2	災害が次第に	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後発生が	早期注意情報 (気象庁)

これまでの避難情報等

- 災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
- 避難指示 (緊急)
- 避難勧告
- 避難準備・高齢者等避難開始
- 大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
- 早期注意情報 (気象庁)

<警戒レベル4までに必ず避難！>

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
 ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。
 ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じて普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。
警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません！

避難勧告は廃止されます。これからは、**警戒レベル4避難指示**で危険な場所から全員避難しましょう。

避難に時間のかかる高齢者や障害のある人は、**警戒レベル3高齢者等避難**で危険な場所から避難しましょう。

内閣府 (防災担当)・消防庁

「避難」って何すればいいの？

小中学校や公民館に行くことだけが避難ではありません。「避難」とは「難」を「避」けること。下の4つの行動があります。

行政が指定した避難場所への立退き避難

自ら携行するもの
・マスク
・消毒液
・体温計
・スリッパ 等

小・中学校
公民館

安全な親戚・知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

親戚・知人宅

普段からどう行動するか決めておきましょう

安全なホテル・旅館への立退き避難

通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

ホテル
旅館

屋内安全確保

ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認することが必要です。
ここら安全！

想定最大浸水深

※土砂災害の危険がある区域では立退き避難が原則です。

「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない (入っていると…)

流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります

地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

② 浸水深より居室は高い

3・4階	5m~10m未満
2階	3m~5m未満
1階	0.5m~3m未満
1階以下	0.5m未満 (1階以下)

③ 水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分 (十分じゃないと…)

水、食糧、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります

※家屋倒壊等氾濫想定区域や②水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況を十分に確認して下さい。

2. 避難訓練を実施する

避難訓練時に「大切にして欲しい心構え」

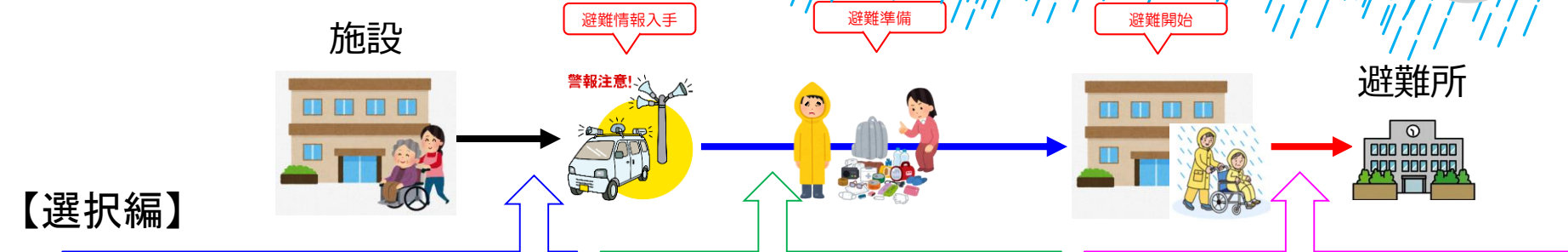
- 目標を定めて(目的を意識して)自分達なりに訓練すること
- 災害が起きそうなときの状況をイメージしてみること
- できることから始めること

- ◆ 想定される状況や必要と考えられる訓練項目についてまとめ、各施設の状況(入所者や職員の状況など)に応じて、自分達なりに訓練することが大切です。
- ◆ いざというとき、冷静に判断するために災害時に発生しそうなことを【イメージすること】を意識しながら実施することが重要です。
- ◆ 災害は想定どおりには発生してくれません。「できること」と「できないこと」も、実際に確認してみることが大切です。

避難訓練の内容

- ◆避難訓練は、気象情報を確認し、避難判断を行うための「共通訓練【必須】」に加え、【選択編】として、体制を整える「初動訓練」と避難するための「避難準備訓練」、避難行動を行うための「非常体制訓練」があります。
- ◆「共通訓練【必須】」は、避難判断のための重要な訓練ですので、必ず実施してください。 ← **必ず実施**
- ◆共通訓練【必須】に加え、施設状況に応じて、できる訓練から実施してください。

共通訓練【必須】
防災気象情報入手して避難判断ができますか。



【選択編】

- 初動訓練**
- ①職員参集は対応できますか。(平日、休日・夜間)
 - ②防災情報入手し、責任者への報告や職員への指示等ができますか。

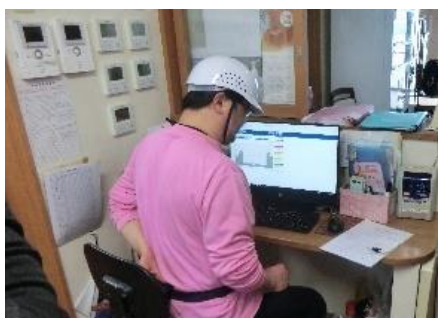
- 避難準備訓練**
- ③必要な資器材や備蓄品は準備できていますか。
 - ④避難時に必要な服装の準備や移動手段の準備はできますか。

- 非常体制訓練**
- ⑤施設内の避難誘導・移動を円滑にできますか。
 - ⑥安全な施設外の避難先まで移動できますか。

必ず実施

共通訓練【必須】

- 管理者及び従業員等にて、防災気象情報の確認訓練



【選択編】

初動訓練

- 管理者等への状況報告訓練



- 職員参集訓練



避難準備訓練

- 避難に必要な備品等の確認訓練



非常体制訓練

- 避難先への移動訓練（立退き避難訓練）



- 施設内の屋内安全確保（垂直避難訓練）



◆タイムテーブルの作成

◆想定する災害を決め、訓練当日のタイムテーブルを作成しましょう。

- 実施する訓練や後述のチェックリストを参考に、訓練内容を決めましょう。
- 訓練前に事前説明の時間を設け、参加者間で情報を共有しましょう。
- 訓練参加者や記録係など、役割分担も決めておきましょう。

【 共通訓練(必須)・初動訓練・非常態勢訓練(館内移動)を実施する場合のタイムテーブル例 】

時間	状況	訓練内容(役割分担)
9:30	大雨・洪水注意報発表	<ul style="list-style-type: none"> ・気象情報を収集する。 ・河川管理者へ気象情報を報告する。
10:00	大雨警報発表	<ul style="list-style-type: none"> ・気象情報を収集する。 ・河川管理者へ気象情報を報告する。 ・不在(休暇中等)職員に連絡し、応援を要請する。 ・全職員に連絡をまわす ・通所利用者や外来診療の受入を判断する ・早期避難対応の要否を判断する
10:30	〇〇河川の水位が氾濫注意水位を超過	<ul style="list-style-type: none"> ・河川の水位情報を収集する。 ・施設管理者へ河川の水位情報を報告する。 ・館内放送の確認
11:00	<div style="color: red; font-weight: bold;"> 洪水警報発表、〇〇河川の水位が避難破断水位を超過、 〇〇市から高齢者等避難が発令 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・気象情報、河川の水位情報、市町村から発表された避難情報を収集し、施設管理者へ報告する。 ・施設管理者が避難を判断し、指示を行う。 ・避難先の選択 ・施設利用者へ説明を行う。
11:10		<ul style="list-style-type: none"> ・施設内における避難移動
11:30		<ul style="list-style-type: none"> ・避難完了



避難訓練実施後の振り返りポイント

1. 設定した「訓練目標」は達成出来ましたか？
2. 訓練でよかったことや得られたことは何でしたか？
3. 避難にかかった時間は、事前の見込みのとおりでしたか？
(見直しをする必要はありませんか)
4. 改善が必要な施設の体制はありませんでしたか？
5. 避難確保計画で見直しや追加が必要な項目は何でしたか？
6. 本当に災害が発生しそうになったときに、施設利用者や職員は、
助かることができそうでしょうか？

⇒訓練参加者全員で振り返りを実施しましょう！

3. 避難訓練チェックリストについて

※避難確保計画チェックリストとは異なります

(避難訓練チェックリストを市町村へ提出する必要はありません)

避難訓練チェックリストについて

避難訓練チェックリストは、共通訓練【必須】と【選択編】から構成されています。

□共通訓練【必須】:大雨等の情報収集から避難開始の判断までを行う訓練

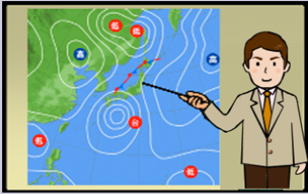
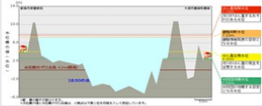


□【選択編】:避難に関する様々な段階の防災行動の訓練

- ・共通訓練【必須】は、全施設において大切・必要な判断(避難開始)の訓練として、刻一刻と変化しながら流れてくる気象情報等を確認しながら、「施設にとって適切なタイミング」を考えるためのチェックリストとなっています。
- ・【選択編】は、避難の各段階で必要と考えられる様々な防災行動について、例示等も参考に、いざという時の行動を確認するチェックリストとなっています。各施設にとって大切と考えられる項目を選択して取り組めるようにしております。

避難訓練チェックリストの使い方

◆ 訓練目標の設定が重要です！

- 避難は想定しているより時間がかかります。
- 訓練目標を決め、訓練結果を振り返り、避難計画を見直しましょう。
- 災害は想定どおりには発生しません。様々な状況をイメージすることが必要です。
- 避難訓練では、訓練時間を計測し、訓練後の見直しや工夫が重要です。

実施の有無	訓練項目	訓練目標 <small>記載例を参考に、各施設で設定して下さい</small>	担当者	結果
□	■ 訓練開始 訓練①: 気象情報を収集する <ul style="list-style-type: none"> ・テレビのdボタン(NHK)を確認する。 ・気象庁のホームページを確認する。 ・気象台のホームページを確認する。 ・防災情報メールを確認する。 ・市町村ホームページを確認する。 ・ラジオから情報確認する。 	<small>(例) 避難確保計画で整理した気象情報について、操作に迷わず円滑に確認する</small> <div style="border: 2px solid yellow; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 記載例やヒント集を参考に施設状況に応じた「訓練目標」を設定し、記入してください。 </div>		
□	訓練②: 河川水位情報を収集する。土砂災害危険度情報を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「川の防災情報」を確認する。 ・熊本県統合型防災情報システムを確認する。 ・河川事務所の水位情報やライブカメラの情報を確認する。 ・防災情報メールを確認する。 ・土砂災害危険度情報(メッシュ)を確認する。 	<small>(例) 避難確保計画で整理した洪水予報・河川水位・土砂災害危険度情報について、操作に迷わずに確認する</small>		
□	訓練③: 責任者に台風や河川水位、土砂災害の危険度の情報を報告する <ul style="list-style-type: none"> ・台風の影響予測を報告する。 ・現状の水位情報を報告する。 ・現状の土砂災害の危険度を報告する。  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 川の水位がキケンです </div>	<small>(例) 情報収集伝達要員は設定した防災情報を確認後、速やかに責任者に伝える</small>		
□	訓練④: 責任者が「心のスイッチを入れる」判断と必要な指示を行う <ul style="list-style-type: none"> ・過去の状況、今後の予測情報を踏まえ、施設内の防災体制に移行するための決断を行う。  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 施設の体制を整えてください。 </div>	<small>(例) 職員は様式12に沿った役割</small>		
□				

訓練後に結果(目標達成状況)を記入してください。

訓練の担当者を記入する




施設独自の訓練項目があれば行を追加してください。

4. 「共通訓練【必須】」チェックリスト

【共通訓練】: 防災体制の確認(1)【情報の収集・報告・判断訓練】

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
□	<p>■ 訓練開始</p> <p>訓練①: 気象情報を収集する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビのdボタン(NHK)を確認する。 ・気象庁のホームページを確認する。 ・気象台のホームページを確認する。 ・防災情報メールを確認する。 ・市町村ホームページを確認する。 ・ラジオから情報確認する。 	(例) 避難確保計画で整理した気象情報について、操作に迷わず円滑に確認する		
□	<p>訓練②: 河川水位情報を収集する。土砂災害危険度情報を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「川の防災情報」を確認する。 ・熊本県統合型防災情報システムを確認する。 ・河川事務所の水位情報やライブカメラの情報を確認する。 ・防災情報メールを確認する。 ・土砂災害危険度情報(メッシュ)を確認する。 	(例) 避難確保計画で整理した洪水予報・河川水位・土砂災害危険度情報について、操作に迷わずに確認する		
□	<p>訓練③: 責任者に台風や河川水位、土砂災害の危険度の情報を報告する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風の影響予測を報告する。 ・現状の水位情報を報告する。 ・現状の土砂災害の危険度を報告する。  <p>川の水位がキケンです</p>	(例) 情報収集伝達要員は設定した防災情報を確認後、速やかに責任者に伝える		
□	<p>訓練④: 責任者が「心のスイッチを入れる」判断と必要な指示を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の状況、今後の予測情報を踏まえ、施設内の防災体制に移行するための決断を行う。  <p>施設の体制を整えてください。</p>	(例) 職員は様式12に沿った役割を確認する		
□				29

【共通訓練】: 防災体制の確認(2)【情報の収集・報告・判断訓練】

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
□	<p>訓練⑤: 高齢者等避難などの避難情報を確認し、責任者に報告する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村ホームページから避難情報を確認する。 ・熊本県防災情報メールを確認する。 ・河川の水位情報を確認し、避難判断水位に達していないか、到達するおそれがないか確認(予測)する。 ・土砂災害危険度情報で危険度を確認する。  <p>避難情報が発令されました</p>	(例) 情報収集伝達要員は設定した防災情報を確認後、速やかに責任者に伝える		
□	<p>訓練⑥: 責任者が避難開始を判断し、指示を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象情報、河川水位情報、土砂災害危険度情報に応じた対応を指示する。 <p>⇒どのような気象情報、水位情報、土砂災害危険度情報のときに、どのような対応をすべきか判断・指示することが大事です。</p>  <p>避難を開始しますので、車の手配をお願いします。</p>	(例) 高齢者等避難が発令されたら、職員に避難開始を指示する		
□	<p>訓練⑦: 施設利用者への説明を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を行うことについて、利用者の状況に応じて、適切な説明を行う。 <p>⇒移動することを別な表現(散歩など)で説明することも工夫の一つです)</p>  <p>避難場所まで避難します</p>	(例) 訓練を行うことの説明をわかりやすく説明する		
□				

【訓練時における課題や気づき】

【ヒント集】

- ・常に天気やニュース(特に台風時)をチェックするようにしている。
- ・大雨が予想される場合は気象情報を近隣施設と伝え合うようにしている。
- ・インターネットでの情報収集で、ブックマークの登録やデスクトップ上にアイコンを追加するなどにより、簡単にアクセスできるようにしている。
- ・「川の防災情報」のライブカメラ映像を活用している。
- ・天気予報確認後、園児の登園を園長が決定し、事前に保護者にメール配信している。
- ・施設独自に、目安となる河川水位を設定している。(事例紹介参照)
- ・停電でテレビや携帯等が使用できない可能性を踏まえて、ラジオやトランシーバー等を準備している。

事例：施設独自の水位標を設置して避難判断のタイミングを確認

特別養護老人ホームAは、川沿いに施設があるため、市の協力を得て、施設前の護岸に水位ラインを引いて、災害対策本部を設置する水位(警戒水位)と避難行動の開始水位(避難判断水位)を設定しています。

平成25年秋田・岩手豪雨では、この水位標にもとづき避難行動を開始した結果、施設利用者全員が無事に安全な場所に避難できました。



5.【選択編】訓練チェックリスト

※ コロナ禍を踏まえ、複数日に分けて実施するなど、
できる訓練から実施してください

避難に必要な時間の把握

施設の全員で考えてみよう！

■各施設において、どの行動が必要か、それにどれくらいの時間がかかるか考えて下さい。



⇒避難訓練を繰り返すことにより、かかる時間を短縮していきましょう。

避難における課題把握

- 以下の項目について、自分の施設は対応可能かをチェックしてみましょう。
- 自施設の被害時における対応能力を分析し、どのような訓練が必要であるかを踏まえた訓練計画を作成することが重要です。

【十分対応出来る:○】
【課題があるかもしれない:△】

対応段階	チェック項目	対応の可否 (○/△を記入)
初動訓練	①職員参集はできますか (平日、休日・夜間)	
	②責任者への報告や職員への指示はできますか	
避難準備 訓練	③資器材・備蓄品等の確保できていますか	
	④避難時の服装準備、移動手段の準備 (車いす・担架、自動車等の確保)はできますか	
非常体制 訓練	⑤施設内の避難誘導・移動はできますか	
	⑥安全な避難先まで移動できますか	

△の項目は、改善の余地が大きい部分と考えられます

⇒できる訓練から実施してみましょう。

チェックリスト① 初動【職員参集(平日、休日・夜間)】

【訓練内容】:職員参集または待機を判断・指示し、速やかに警戒体制等を確保するために連絡網を活用して適切・迅速な参集訓練を行う。(地震や火災訓練用の連絡網を活用可能)

訓練のポイント

■洪水時や土砂災害時は決められた全職員が出勤できるとは限らないため、施設に到着するまでの時間や職員の家庭の事情等を予想して訓練することが重要です。

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
<input type="checkbox"/>	不在(休暇中等)職員に連絡し、応援を要請する ・日中に、夜間・休日を想定した訓練を行う ・緊急連絡網を複数パターン用意する	(例)休暇中等の職員に〇分以内に連絡が取れる (緊急連絡網の確認)		
<input type="checkbox"/>	全職員に連絡をまわす ・SNSグループを活用する ・緊急連絡網を複数パターン用意する	(例)休日に、連絡が職員全員に途切れなくまわる (緊急連絡網の確認)		
<input type="checkbox"/>				



【訓練時における課題や気づき】

チェックリスト① 初動【職員参集(平日、休日・夜間)】

【ヒント集】

- ・職員の入替わりもあるため、緊急連絡網を毎年見直しする。
- ・職員の出勤手段、通勤時間及び連絡方法を把握し、経験者や役職者、機動力のある人や近くに住んでいる等で来所しやすい職員のリストを作成する。
- ・職員緊急連絡先を印刷して日頃から携帯する。
- ・緊急連絡先は、自宅ではなく携帯番号で登録する。
- ・緊急連絡網を複数パターン用意する。
- ・緊急連絡網として、SNSのグループ機能を活用する。
- ・悪天候の予想時は、所長、リーダー等が施設に泊まることで対応する。
- ・入居者に対して宿直員数が少ない場合、近隣の経営者宅に連絡するルールとする。
- ・災害時に自分や家族と入居者の優先対応に関するルールづくりをする。
- ・日中に、夜間を想定した電話連絡を訓練する。
- ・夜間の少ないスタッフでの避難対応や他スタッフとの連携を訓練する。
- ・訓練で、あえて応答しない職員を設定して、連絡がまわるかどうかを訓練する。

チェックリスト② 初動【情報伝達・指示】

【訓練内容】: 気象情報等の状況にあわせて、各役割内容の確認・指示・対応を行う。

訓練のポイント

- 初動で必要となる取組や体制・役割を理解する。(計画内容を全従業員で理解する⇒職員教育)
- 管理権限者(代行者)は、報告された情報の職員への伝達と指示する行動をイメージする。

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
<input type="checkbox"/>	初動体制(職員待機やリーダー等)を決定する ・一人複数役をこなせるように訓練時にローテーションする。	(例) 責任者は参集状況に応じた役割分担を判断し、職員に指示する		
<input type="checkbox"/>	通所利用者や外来診療の受入を判断する ・保護者等への連網を活用し、事前連絡を行う。	(例) 責任者は通所利用者や外来受入の可否を判断し、職員に対応を指示する		
<input type="checkbox"/>	早期避難対応の要否を判断する ・重篤者など避難に時間を要する利用者の早めの対応を行う。	(例) 早期避難が必要な利用者(体調管理に特に留意が必要な利用者等)の有無を判断し、適切な対応を指示する		
<input type="checkbox"/>	館内放送の確認 ・トイレ、風呂など、管内放送が聞こえない場所がないか確認する。	(例) 施設館内放送の動作確認(施設内の聞こえ方に差がないことを確認)		
<input type="checkbox"/>				

【訓練時における課題や気づき】

チェックリスト② 初動【情報伝達・指示】

【ヒント集】

- ・職員のネームプレートに災害時の役割を明記する。
- ・一人数役をこなせるように、役割分担を訓練時にローテーションする。
- ・避難判断時に家庭等の協力を得るための協議や説明を実施する。(下記事例参照)
- ・可能な場合、入所者を各家庭に一時帰宅させる。
- ・保護者等への一斉メール配信サービスを利用する。
- ・避難先の情報・写真をご家族へ事前に提供する。
- ・利用者の家族と連絡がとれない場合のため、利用者宅の避難場所を整理する。
- ・緊急連絡手段として、トランシーバーを準備する。
- ・体調の良くない入所者の早期避難などの避難対応を検討する。

事例：各種警報への対応に関する保護者の理解促進

知的障害者の通所施設Bでは、各種警報への対応について保護者の理解を得るため、月1回の保護者会で確認するとともに、台風等の予報がでた場合は、前日までに各種警報への対応に関する書類を作成し、保護者に配布するようにしています。また、施設利用中に警報等が発表された場合には、電話またはメールにて保護者へ連絡するなど、情報伝達の体制を整えています。

各種警報に対する対応

- 8時前に警報解除された場合
⇒通常通り(給食あり)
- 8時～12時に警報解除された場合
⇒解除1時間後から開所(給食なし)
- 12時以降に警報解除された場合
⇒休業



連絡先〇〇〇

チェックリスト③ 避難準備 【資器材・備蓄品等の準備】

【訓練内容】: 利用者の配慮事項等に対応した資器材等の配置や設置等の効率化

訓練のポイント

- 水害や土砂災害時に使用可能な保管場所や状態にあるかを確認する。
- 土のうの作成や止水板の設置など、通常業務で行わない項目は、継続的な避難訓練の対象とし、短時間での対応が可能な体制構築を図る。

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
<input type="checkbox"/>	資器材、備蓄品等の確保 ・車いす・担架、備蓄品等は日頃から確認出来る場所に配置する。 ・各居室に非常時持ち出し袋(お薬手帳、薬など)を配備する。 	(例) 利用者に必要な備蓄品・携行品の種類・量を迅速に確保する		
<input type="checkbox"/>	資器材・備蓄品等の移動 ・場所をわかりやすい所に置き、避難の時短を図る。また、すぐ動かせるようにしておく。 	(例) 必要資器材を上層階に〇分で(〇名で)移動する (例) 備蓄品を避難先への搬送用に車に〇分で積み込む		
<input type="checkbox"/>	土嚢や止水板の設置 	(例) 玄関に〇分で設置する		
<input type="checkbox"/>	備蓄品(水・食料)の実食	(例) 災害時用の備蓄食料品の味の確認や食べ方を理解する		
<input type="checkbox"/>	利用者の情報を適切に管理 ・1・2週間に1度はカルテを出力する。	(例) 停電時にも利用者の情報が確認できる		

【訓練時における課題や気づき】

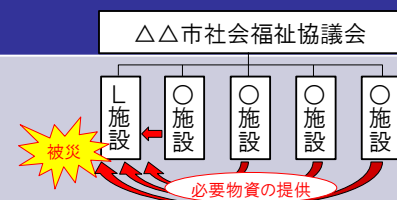
チェックリスト③ 避難準備 【資器材・備蓄品等の準備】

【ヒント集】

- ・資器材(車いす・担架など)、備蓄品等は日頃から確認出来る場所に配置する。
- ・各居室に非常時持ち出し袋(お薬手帳、必要な薬など)を配備する。
- ・薬の備蓄と処方薬情報の持ち出しファイルの準備をしている。
- ・避難先に備蓄品を置いてもらえるよう協議する。(下記事例参照)
- ・数年保管可能な水や食料の備蓄や屋上への飲料水用タンクを設置する。
- ・土のうと運搬用のカートを備蓄する。
- ・カセットコンロや発電機を確保する。発電機は定期的に試運転する。
- ・1・2週間に1度はカルテを出力する。
- ・トイレ、風呂など、管内放送が聞こえない場所がないか確認する。
- ・備蓄品を使用期限前におやつとして実食している。

事例：複数の施設間で備蓄品を共有

特別養護老人ホームCでは、施設の備蓄倉庫とは別に、避難場所にも備蓄品を備えています。また、「社会福祉施設災害支援ネットワーク」の体制を地域で構築しており、施設間で備蓄品を共有できるような協定を結んでいます。



チェックリスト④ 避難準備 【移動に向けた事前準備】

【訓練内容】：移動手段の確実な準備・確保と、移動開始までを短縮化するための段取りの確認

訓練のポイント

- 日頃から、携行品の保管や避難用の資器材の設置場所等、災害時の避難準備時間の短縮化や対応の効率化に繋がる工夫を考える。

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
<input type="checkbox"/>	避難誘導班の体制確認 ・利用者ごとの役割分担を確認する。	(例) 避難誘導班の体制と担当ごとの役割分担 (避難確保計画)を確認する		
<input type="checkbox"/>	利用者の所在・状況確認 ・日常の利用者の状況チェックをより短時間で実施する	(例) 利用者の所在や状態、安否状況等を〇分で (〇名で)確認する		
<input type="checkbox"/>	利用者の事前準備 ・着替え、車椅子への移動、早めの食事などを行う。 	(例) 利用者の着替えを〇分で行う		
<input type="checkbox"/>	施設内の移動手段の確認 ・各居室に避難経路を貼る。	(例) 車いすや担架等の資器材を確保する (例) エレベータの状況や機械室を確認する		
<input type="checkbox"/>	施設外の移動手段の確認 ・避難車両の乗車割り当て表を作成する。 ・避難者の引き取りチェックリストを作成する。 ・保育園の応援(ボランティア)隊を確保する。 	(例) 避難移動用の自動車を必要台数確保する		
<input type="checkbox"/>				

【訓練時における課題や気づき】

チェックリスト④ 避難準備 【移動に向けた事前準備】

【ヒント集】

- ・各部屋に車椅子や懐中電灯を配置する。
- ・車椅子などの場所をわかりやすい所に置き、避難にかかる時間の短縮を図る。
- ・各居室に避難経路を貼る。
- ・玄関に全入居者の提供薬剤や携行品のリュック等を設置する。
- ・移動用の車(園バス)を常に置いている。
- ・公用車をあえて車庫にしまわず玄関先に駐車する。
- ・避難車両の乗り込み用の乗車割り当て表を作成する。(事例紹介参照)
- ・ガソリンが半分になったら給油する。
- ・出口に近い場所で作業するようにする。
- ・避難者の引き取りチェックリストを作成する。
- ・保育園の応援(ボランティア)隊を確保する。

事例：施設利用者の乗車区分の整理による円滑かつ迅速な搬送

特別養護老人ホームEでは、施設利用者を避難場所まで車両で移送する際に「対応別避難誘導方法一覧表(様式11)」を作成しています。避難誘導時には、この一覧表にもとづき、施設利用者を「歩行可能」「座位可能」「座位不可」「帰宅」「入院」に区分し、人数を整理したうえで避難誘導要員と搬送車両の割り当てを行い、避難訓練を実施しています。

チェックリスト⑤ 非常体制【施設内の避難誘導】

※土砂災害については「立退き避難」が基本

【訓練内容】：避難誘導班の責任者は、利用者の避難における配慮事項及び優先度を考慮し、避難誘導班担当者、他の従業員、支援者等への適切な指示を行う。

訓練のポイント

- 地震・火災等の訓練を参考に、施設利用者の移動時の配慮事項を確認する。
- 避難生活が長期化する可能性も念頭に、避難先の環境を確認する。
- 停電等により、施設内の環境も変わる可能性があることも配慮して訓練する。

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
<input type="checkbox"/>	避難先の選択 ・施設内の避難スペースを迅速に確保できるようにする。	(例)避難先(施設内の上層階か施設外か)を迅速に判断し、周知する		
<input type="checkbox"/>	施設内における避難移動 (玄関まで/上層避難) ・1階から2階への避難訓練を実施する。 ・職員が利用者の代役となり、患者の負担がないように実施する。 ・夜間訓練を夜勤者1人で行い、深夜の避難計画を作成する。	(例)施設内の移動を〇分内で完了する (例)エレベータを利用せずに階段を利用して上層階の避難場所に移動する		
<input type="checkbox"/>	利用者の心身の健康管理 ・利用者ごとの配慮事項を確認する。	(例)移動中や施設内の避難場所で、利用者の状態を確認する体制を確認する		
<input type="checkbox"/>				

【訓練時における課題や気づき】

チェックリスト⑤ 非常体制【施設内の避難誘導】

※土砂災害については「立退き避難」が基本

【ヒント集】

- ・1階から2階への避難訓練を実施する。
- ・避難訓練時に避難に要する時間を計測する。
- ・避難訓練を通して、入居者の方にも避難方法を覚えていただく。
- ・引き渡し訓練を保護者と共に実施している。
- ・夜間の避難訓練を夜勤者1人で行い、深夜の避難計画を作成する。
- ・その日の係によって避難訓練の担当を決める。
- ・地域の避難場所となることで、地域の協力を得るようにする。
- ・訓練で、病院側が患者役をたて、患者の負担がないように実施する。
- ・消防署から避難訓練用VTRを借用し、「見る訓練」として実施する。

事例：法人施設内で連携した避難訓練を実施




特別養護老人ホームEでは、同じ法人施設を4つのブロックに分け、ブロックごとに連携した避難訓練を定期的実施しています。

チェックリスト⑥ 非常体制【施設外への避難誘導】

【訓練内容】: 避難誘導班の責任者は、利用者の避難における配慮事項及び優先度を考慮し、避難誘導班担当者、他の従業員、支援者等への適切な指示を行う。

訓練のポイント

- 実際の移動には、利用者の負担も大きいことから、職員による代替対応や、平常時の散歩等、訓練による負担の軽減化に留意する。
- 一斉避難だけではなく、段階的な避難(グループ分け)など、効率的な避難対応を検討する。

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
<input type="checkbox"/>	避難先の選択 ・避難先に事前連絡して訓練を実施する。 	(例) 責任者は施設外の避難先を決定し、周知する		
<input type="checkbox"/>	移動経路・移動手段の決定 ・大雨時の状況を踏まえ、避難路・移動手段の事前確認を行う。	(例) 状況を踏まえて移動経路と手段を判断し、周知する		
<input type="checkbox"/>	車両への乗り込み訓練 	(例) 手配した車両に〇分で乗り込む (例) ピストン移送の乗り込み順番を確認する		
<input type="checkbox"/>	リフト車両の操作訓練	(例) 操作可能な従業員数を〇名とする		
<input type="checkbox"/>	避難場所への避難移動 ・隣接しているグループ施設や他施設との避難訓練を実施する。 ・他地区の施設との相互受け入れに関する協議を行う。	(例) 施設外の避難先まで、〇分で移動する (例) 移動経路上の課題(危険要因等)等と対応を確認する		
<input type="checkbox"/>	利用者の心身の健康管理 ・利用者ごとの配慮事項を確認する。 ・引き渡し訓練を保護者と共に実施する。 	(例) 移動中(車両内等)や避難先で、利用者の状態を確認する体制を確認する		
<input type="checkbox"/>				

【訓練時における課題や気づき】

チェックリスト⑥ 非常体制【施設外への避難誘導】

【ヒント集】

- ・避難先に事前連絡して訓練を実施する。
- ・第3避難所まで避難経路を歩く避難訓練を行う。
- ・複数の避難所及び避難経路を設定したうえで、大雨時の水位や降雨状況を踏まえた選択判断の“あたり”を事前につける訓練を行う。
- ・到着した順に利用者を車に乗せて避難場所へ移動する訓練を実施する。
- ・隣接しているグループ施設や他施設との避難訓練を実施する。
- ・他地区の施設との相互受け入れに関する協議を行う。
- ・隣接する会社等と非常時の避難支援や避難の受け入れに関する協議を行う。
- ・地区の祭りに参加することなどにより、地域とのコミュニケーション強化と災害時の支援ネットワークの構築を図る。

事例：日常時から道順や移動時間を確認

知的障害者の通所施設Fでは、いざというときに施設利用者が落ち着いて行動できるように、避難経路を散歩コースに設定し、道順や避難場所を確認しています。また、実際に経路を歩くことで、横断が危険な交差点や交通量の多い道路などを把握し、対策を立てています。

さらに、定期的に避難場所に出向き、施設利用者を環境に慣れさせることで、避難時の抵抗感を低減させるようにしています。

- ◆自施設だけの対応力では不足する場合、日頃からの地域との連携が有効となります。
- ◆地域と連携している施設の取組を紹介しますので、参考にしてください。

■ 合同訓練

- ・地域の人と一緒に訓練に参加してもらっている。
- ・近隣施設同士で訓練を実施している。
- ・小学校や中学校と一緒に避難訓練を行っている

■ 他団体との連携

- ・地元消防団と連携した訓練を実施している
- ・隣接会社が非常時に避難を手伝う約束をしている
- ・自治会と災害協定を結んでいる
- ・近隣施設への避難訓練の実施（RC2階以上の建物）
- ・他事業所（同法人）との連携、情報交換、相談
- ・車での避難の際、バス会社への事前依頼
- ・近くの高台にあるコンビニの駐車場を避難先とし、トイレ、水、食料の提供についても依頼している

■ 地域での協力

- ・回覧板等で近隣の方と情報共有している
- ・地域（町内会）と応援協定を締結
- ・地域の方との連携マニュアル化
（夜間どこから入るか、など）

■ 地元住民との交流


- ・施設の状況を知ってもらうための広報をしている
- ・協力予定の住民との普段からのコミュニケーション
- ・焼肉パーティーで親睦を深めている。
- ・近隣の方にお茶会、コンサートの招待をしている
- ・町内会の総会、夏祭りに参加
- ・オレンジカフェ（認知症カフェ）による情報共有


■ その他

- ・停電時に一人暮らしの方を施設に泊めた。
- ・警察の方や消防の方からの講習を受けている
- ・HPによる情報提供




【参考】地域との連携事例

(事例1) 地域で決める避難先	
場所	秋田県
概要	福祉施設が洪水時の避難確保計画を策定。避難先の検討に、教育機関や行政機関、関連企業を交え検討。約1km先の中学校を避難所として選定した。その他にも、自治会などと共に防災訓練や防災学習会を開催。 
参考	国土強靱化 民間の取り組み事例集 (内閣官房,平成 29年 4月) https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyujinka/h29_minkan/

(事例2) 防災教室を通じた交流	
場所	徳島県
概要	福祉施設が主催し、地域の自主防災会や小学校を巻き込んだ防災教室を開催。積極的に防災組織や徳島県建築士会等の団体と連携して地震・津波、水害等の知識の普及を行っている。 
参考	国土強靱化 民間の取り組み事例 (内閣官房,平成 30年 6月) https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyujinka/h30_minkan/

(事例3) 病院と地域が一体になった取組	
場所	東京都千代田区
概要	町会と病院で災害時相互応援協定を締結。毎年、病院や住民とのコミュニケーションの場として納涼大会を開催している。また、防災訓練も合同で実施している。
参考	第15回地域の防火防災功労賞事例集 (東京消防庁,平成 31年 1月) https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/bou_topic/koroshio/senkou-15jirei.pdf


(事例4) 地域ぐるみの「防災委員会」	
場所	東京都葛飾区
概要	福祉施設と町会との間に災害時相互応援協定を締結。合同の防災訓練後、自衛消防組織、町会、消防署、区が参加する「防災委員会」を開催し、訓練の反省や意見交換を実施。 
参考	東京防災隣組第三回認定団体活動事例集 (東京都,平成 26年 3月) https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/res/projects/default_project/page_001/001/375/3.pdf

(事例5) 認知症サポーターの養成	
場所	滋賀県犬上郡
概要	認知症サポーターの養成講座を、福祉施設のセンター長が主催し実施。地元では約120名が認知症サポーターになっている。そのため防災訓練では、グループホームの入居者と住民と一緒に避難を行っており、有事に備えている。
参考	第15回地域の防火防災功労賞事例集 (東京消防庁,平成 31年 1月) https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/bou_topic/koroshio/senkou-15jirei.pdf

(事例6) 避難の後につなげる	
場所	神奈川県横浜市
概要	福祉施設の防災訓練を運営推進会議の日に実施することで、地元の人々も参加。地元の人と協力関係を築くことができ、主に避難誘導後の入居者の見守りを依頼している。
参考	災害に強い高齢者住まいの防災訓練～地域と連携した取り組みを進めるために～ (株式会社横浜銀行総合研究所) https://www.yokohama-ri.co.jp/fukushi_bcp25/pdf/Bousai01.pdf

(事例7) 住民との支えあい	
場所	神奈川県横浜市
概要	福祉施設の事業員が町内会を手伝っており、そこから地域とのつながりができている。施設の防災訓練には地元住民や消防団が参加し、福祉施設の概要や入口がどこかなどを知ってもらえる環境を作っている。
参考	災害に強い高齢者住まいの防災訓練～地域と連携した取り組みを進めるために～ https://www.yokohama-ri.co.jp/fukushi_bcp25/pdf/Bousai01.pdf

(事例8) 避難支援ボランティア	
場所	山口県柳井市
概要	福祉施設の近隣の老人クラブで、入居者の避難支援を行うボランティアを結成。災害時の応援関係の構築や、防災訓練への参加などを行っている。 
参考	福祉施設等の災害対策取組事例集 (山口県健康福祉部厚生課,平成 23年 3月) https://www.kaigo.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/file/1305/000922_f3.pdf

(事例9) 地元高校生とのつながり	
場所	兵庫県尼崎市
概要	医療関係のクラスがある高校と福祉施設が連携した例。高校生が救護用担架を使用して、居住者を上階へ避難させる訓練を行った。最後には全生徒が担架運搬訓練を成功させることができた。 
参考	兵庫県災害時要援護者支援取組事例集 (兵庫県,平成 30年 3月) https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk37/documents/zireisyuu.pdf

6. 注意事項(新型コロナウイルス対策等)

◆事故、要配慮者の健康状態への配慮

- ① 訓練の実施にあたっては、事故や怪我、要配慮者の健康状態に注意しましょう。
- ② 特に新型コロナウイルス感染症対策には十分な注意が必要です。
※ 実働訓練が困難な場合は、机上訓練の実施も検討
- ③ 避難訓練が屋外となる場合は、安全確保やイベント保険の活用を検討しましょう。
- ④ 予め要配慮者やその家族の要望確認、訓練参加の了承をいただくことが必要です。

◆訓練の実施・工夫

- ① 全ての訓練内容を実施することが困難な場合は、机上訓練、電話連絡訓練などできる部分から実施しましょう。
- ② 少ない人数で始め、その後訓練内容を充実させていくことも一つのやり方です。
- ③ 訓練が予定どおり進まない場合でも慌てず継続。反省材料として次の訓練に生かしましょう。
- ④ 訓練のやり方がわからない、実施が困難などの場合は、県や市町村に相談してください。

7. 避難訓練実施報告書を提出する

8. 避難訓練計画を作成する

9. 施設が考える避難時における主な課題等

◆避難時における主な課題等①

- ◆今年6月に県河川課が実施した「避難確保計画に基づく避難活動の実施状況に関するアンケート調査」では多くの施設から御回答をいただきました。
- ◆アンケート時に各施設から提出された避難時の主な課題について、考えられる対応等をまとめました。

No	施設から提出された主な課題等	考えられる対応等
1	避難可能な近隣施設(民間施設含む)の情報が欲しい	・各市町村のハザードマップやホームページ、防災無線により御確認ください。
2	避難所までの道路情報や避難所の混雑具合に関する情報を発信して欲しい。	・市町村防災担当課へお問い合わせください。また、ホームページ等で混雑状況を掲載している市町村もありますので、そちらも御確認ください。
3	一般の避難所と同じく、福祉避難所の開設情報も周知して欲しい。	・福祉避難所の開設情報については、市町村防災担当課や福祉担当課へお問い合わせください。また、ホームページ等で掲載している市町村もありますので、そちらも御確認ください。
4	レベル4(避難指示)発令時に遅延登園を依頼したが、通常どおり登園した園児もいた。避難情報の内容周知が必要。	・市町村では公共施設へのポスター掲示や広報誌による周知が行われています。各施設におかれましても、研修時にお示した広報用チラシの施設内掲示や利用者の家族へ配布いただくなど、周知をお願いします。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所は一般の方も利用している、施設利用者(大人数)の収容が難しい場合、どこに避難すれば良いか。 ・重度の認知症患者が多く、避難所への避難が困難【社会福祉施設】 ・入院患者の避難が困難【医療施設】 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時には家族や保護者、地域住民の協力を得られるよう、事前に協議しておくことが必要だと考えられます。 ・避難先については、あらかじめ市町村と協議のうえ決定し、また、市町村が開設する避難所への避難が困難な場合は、系列や近隣の同種施設の協力が得られるよう、日頃から連携を図ることが必要だと考えられます。 ・更に、土砂災害のおそれがない場合や、浸水深が浅く、家屋倒壊等氾濫想定区域(※)に該当しない場合は、2階への避難など、垂直避難の実施についても御検討ください。 ・なお、次のとおり補助制度もあります。詳細は県高齢者支援課へお問い合わせください。 熊本県老人福祉施設等整備費補助金(水害対策強化事業※令和3年度時点) ・エレベータ・スロープ設置、避難スペース確保のための改修工事等水害対策に資する事業に対する補助 ・対象 : 定員30人以上の特養・老健・介護医療院・軽費老人ホーム・養護老人ホーム ・補助率等 : 国1/2 県1/4 事業者1/4(総事業費80万円以上)

※家屋倒壊等氾濫想定区域については、市町村のハザードマップや各河川の洪水浸水想定区域図で御確認ください。

◆避難時における主な課題等②

No	施設から提出された主な課題等	考えられる対応等
6	地域の消防団に予め要請しておけば、避難時に応援にきてくれるのか。	・日頃から避難訓練などを通じて、地元の自主防災組織や消防団と協議を行うなど、避難時における地域との連携体制の構築をお願いします。
7	ライフライン復旧までの入所者への対応(停電時の夏場の避暑等)。電気、ガス、水道などの復旧見込みを早い段階で教えてもらいたい。	・市町村のホームページに復旧状況が掲載される場合もありますが、基本的には各事業者のホームページなどを御確認ください。また、各施設におかれましては、停電に備えた備蓄(発電機、保冷剤等)をお願いします。
8	短時間での保護者への引き渡しは課題【小学校】	・県教育委員会が作成した「学校防災(地震・津波)マニュアル作成の手引」(平成29年3月)や「学校防災教育指導の手引」(平成30年3月)、また、防災教育について研究指定を受けた学校の引き渡し訓練の資料を掲載し、令和3年度防災主任研修会で情報を提供しているので参考にしてください。
9	平日昼間の局地的な短時間の大雨の場合、保護者に引き渡すのか、校舎内い留まるのかの判断が難しい【小学校】	・保護者・地域・関係機関と協議の上、事前にその対応について取決めしておく必要があり、保護者の危険性を考えると短時間の大雨であれば、学校に留まらせておくことも考えられます。その場合、そのことを保護者へお知らせして、雨の状況を見ながら引き渡しをすることも考えられます。文部科学省が作成した『学校の「危機管理マニュアル」等の評価・見直しガイドライン』(令和3年6月)も参考にしてください。
10	小学校との連携が不安【放課後児童育成クラブ】	・小学校と事前に協議し、災害時の対応について取り決めておく必要があると考えられます。
11	災害時の保護者との情報共有方法の明確化【幼稚園・保育園】	・緊急時には、保護者に対し、メールによる情報の一斉送信を行うなど、施設と保護者の間で、あらかじめ連絡方法の共通認識を図っておく必要があると考えられます。
12	避難時に車を利用しているが、チャイルドシートが足りずに苦慮している【幼稚園・保育園】	・できるだけ登園後に避難を要する事態を回避できるよう、気象情報を確認するとともに、臨時休園等の基準(高齢者避難発令時は休園等)について、あらかじめ市町村と協議しておく必要があると考えられます。 ・また、緊急に避難を要する場合には、避難輸送について、保護者や地域住民の協力を得られるよう、事前に相談を行っておくことも重要です。 ・なお、土砂災害のおそれがない場合や、浸水深が浅く、家屋倒壊等氾濫想定区域(※)に該当しない場合には、2階への避難など、垂直避難についても御検討ください。
13	福祉車両がないため、車イスごとの避難が困難【社会福祉施設】	・避難に必要な車両の確保に努めていただくとともに、避難時には保護者や地域住民の協力を得られるよう、事前に協議をしておくことが必要だと考えられます。

※家屋倒壊等氾濫想定区域については、市町村のハザードマップや各河川の洪水浸水想定区域図で御確認ください。